



# Cisco Unity Express ソフトウェアの設定

---

Cisco CallManager と Cisco Unity Express のすべてのハードウェアおよび Cisco CallManager ソフトウェアのインストールを完了したら、Cisco Unity Express ソフトウェアを設定します。この章では、次の設定情報と手順について説明します。

- [前提条件 \(P.26\)](#)
- [新規 Cisco Unity Express ソフトウェア パッケージの設定 \(P.29\)](#)
  - [Cisco Unity Express ソフトウェアへの IP 接続のアクティブ化 \(P.29\)](#)
  - [EXEC モードと設定モード \(P.31\)](#)
  - [コマンド環境の開始 \(P.31\)](#)
  - [コマンド環境の終了 \(P.32\)](#)

## 前提条件

Cisco Unity Express の設定を開始する前に、Cisco CallManager システムをインストールしておく必要があります。Cisco CallManager のインストールを実行しなかった、または現在実行していない場合は、インストールの担当者、またはその他のサポート担当者に問い合わせるかどうかを確認してください。

1. (必須) Cisco CallManager および Cisco Unity Express のハードウェアをすべてインストールし、機能を検証します。
  - a. 電話機を接続して Cisco CallManager サーバに登録します。
  - b. Cisco CallManager サーバに、Network Module (NM; ネットワーク モジュール) の設定をサポートする Cisco IOS Release 12.3(4)T 以降のリリースまたは Advanced Integration Module (AIM; 拡張統合モジュール) の設定をサポートする Cisco IOS Release 12.3(7)T 以降のリリースが構成されていることを確認します。
  - c. NM の場合は、Enable LED が点灯していることを確認します。



- (注) Cisco Unity Express モジュールが格納されているルータには、Uninterruptible Power Supply (UPS; 無停電電源) を接続することを強くお勧めします。信頼性の高い UPS ユニットを使用すると、ルータおよび Cisco Unity Express モジュールの運用を維持するための電力を継続的に得ることができます。電力消費は Cisco プラットフォームによって異なるため、ユニットのキャパシティおよび実行時間を考慮してください。UPS には、ルータに Cisco Unity Express を正しくシャットダウンさせてからルータの電源を切るシグナリング メカニズムが備えられている必要があります。

次の設定がルータに追加されている場合、Cisco IOS Release 12.3(4)T は、UPS デバイスへの自動切り替えをサポートします。

```
line aux 0
privilege level 15
modem Dialin
autocommand service-module service-engine slot/0 shutdown no-confirm
```

ここで *slot* は Cisco Unity Express モジュールのスロット番号です。

2. (必須) Cisco CallManager ソフトウェアをインストールし、機能を検証します。
  - a. Cisco CallManager 設定 Web ページにアクセスできることが必要です。
  - b. `service-engine` インターフェイス上に `ip unnumbered` コマンドを設定するには、Cisco IOS ソフトウェアのコマンドをルータに対して実行して、Cisco Unity Express モジュールへのスタティック ルートを作成します。次に例を示します。
 

```
ip route 10.3.6.128 255.255.255.255 Service-Engine1/0
```

この例では、10.3.6.128 は Cisco Unity Express モジュールの IP アドレスで、Service-Engine1/0 は Cisco Unity Express モジュールのホストであるルータ スロットです。
  - c. NM の場合は、Cisco CallManager に 8 つの CTI ポートを設定します。AIM の場合は、Cisco CallManager に 4 つの CTI ポートを設定します。Cisco CallManager オプションの **Device > Phones > Add new Phone** を使用します。これらのポートは、通話を終了するために、Cisco Unity Express アプリケーション (ボイスメール、自動受付、および Administration via Telephone [AvT]) に割り当てられます。



(注) Cisco CallManager に、過剰な CTI ポートを設定しないでください。過剰な CTI ポートを設定すると、Cisco CallManager のスケーラビリティに影響し、Cisco CallManager がサポートすることのできる他のデバイス数が制限されます。

- d. **Device > CTI Route Point** オプションを使用して、Cisco CallManager に最低 2 つのルートポイントを設定します。Cisco Unity Express のボイスメール アプリケーションが一方のルートポイントを使用し、自動受付アプリケーションが他方のルートポイントを使用します。Cisco Unity Express AvT を使用する予定の場合は、Cisco CallManager に 3 番目のルートポイントを設定してください。



(注) Cisco CallManager に、過剰なルートポイントを設定しないでください。過剰なルートポイントを設定すると、Cisco CallManager のスケーラビリティに影響し、Cisco CallManager がサポートすることのできる他のデバイス数が制限されます。

- e. **User > Add new user** オプションを使用して、Cisco CallManager の JTAPI ユーザを作成します。**Device Association** オプションを使用して、この JTAPI ユーザに CTI ポートとルートポイントを関連付けます (JTAPI ユーザには、Cisco Unity Express ボイスメールボックスが割り当てられません。JTAPI ユーザは、Cisco CallManager への接続を確立するための Cisco Unity Express のプレースホルダーです)。Enable CTI Application Use チェックボックスが、この JTAPI ユーザに対してオンになっていることを確認します。
- f. Cisco Unity Express ソフトウェアのインストール時に、Cisco Unity Express の管理者ユーザ ID とパスワードを作成し、DNS サーバと NTP サーバの IP アドレスを指定します。このユーザ ID とパスワードは、初期化ウィザードにログインするときに必要なになります。
- g. 通話の処理が効率的に行われるように、Cisco Unity Express ルータにアクセス リストを設定して、JTAPI トラフィックに優先順位を付けます。次の例を参考にしてください。

```
class-map match-all jtapi
  match access-group 110
class-map match-all voice
  match access-group 100

policy-map jtapi
  class jtapi
    set dscp cs3
    bandwidth 20
  class voice
    set dscp af31
    priority 320
  class class-default
    fair-queue

interface Serial0/1
  ip address 192.168.10.0 255.255.255.0
  service-policy output jtapi
  clockrate 256000
  no cdp enable

access-list 100 permit udp host 10.3.6.128 any range 16383 32727
access-list 110 permit tcp host 10.3.6.128 any eq 2748
```

ここで、10.3.6.128 は、Cisco Unity Express が格納されているモジュールの IP アドレスです。

**show policy-map interface** コマンドの出力は、マーク付きパケットの数が増加していることを指し示す必要があります。次の例を参考にしてください。

```
Match: access-group 110
QoS Set
  dscp cs3
  Packets marked 334 <-----This number should increase.
```

3. (必須) Cisco Unity Express と通信する FTP サーバは、パッシブ FTP 要求をサポートしている必要があります。この機能を FTP サーバに設定する方法については、FTP サーバのマニュアルを参照してください。
4. (オプション) Cisco CallManager インターフェイスにユーザが作成されていない場合、すべてのユーザ、グループ、およびユーザとグループの内線番号のリストを作成します。このリストにより、多くのユーザと内線番号を簡単に設定できます。
5. (オプション) 自動受付アプリケーションのオプション初期メッセージを作成します。自動受付には、デフォルトの初期メッセージが用意されています。別のメッセージを .wav ファイルで作成し、そのファイルを自動受付の設定の一部としてインストールできます。詳細については、[P.77](#) の「[自動受付グリーティングまたはプロンプト ファイルの録音](#)」を参照してください。
6. (オプション) ビジネスの要件に合わせて自動受付プロンプトのシーケンスをカスタマイズします。詳細については、[P.79](#) の「[自動受付スクリプトの設定](#)」を参照してください。
7. (必須) Cisco Unity Express モジュールの IP アドレスを記録します。システムを構成するために GUI にアクセスするには、この IP アドレスが必要です。

## 新規 Cisco Unity Express ソフトウェアパッケージの設定

Cisco Unity Express を注文すると、Cisco Unity Express ソフトウェアと購入済みライセンスがモジュールにインストールされた状態で工場から出荷されます。予備のモジュールも、ソフトウェアとライセンスがインストールされた状態で付属します。

新規にインストールした Cisco Unity Express を設定するには、次の手順を実行する必要があります。

1. モジュールとルータ間の IP アドレス指定を設定します。P.29 の「Cisco Unity Express ソフトウェアへの IP 接続のアクティブ化」を参照してください。
2. Cisco Unity Express ソフトウェアの設定を開始します。P.33 の「設定タスク」を参照してください。

## Cisco Unity Express ソフトウェアへの IP 接続のアクティブ化

Cisco Unity Express モジュールをインストールしたら、Cisco CallManager と Cisco Unity Express アプリケーション間の IP 通信リンクをアクティブにします。

### 前提条件

ソフトウェアをアクティブにするために必要な情報は次のとおりです。

- Cisco Unity Express のホストである Cisco IOS ルータ上の Cisco Unity Express モジュールのスロット番号とユニット番号。
- Cisco Unity Express のホストである Cisco IOS ルータの IP アドレスとサブネットマスク、または unnumbered インターフェイスのタイプと番号。
- Cisco Unity Express モジュールの IP アドレス。この IP アドレスは、Cisco Unity Express のホストである Cisco IOS ルータと同じサブネット上にある必要があります。
- Cisco Unity Express ルータのデフォルト ゲートウェイの IP アドレス。この IP アドレスは、Cisco Unity Express のホストである Cisco IOS ルータと同じ IP アドレスである必要があります。

### 概略手順

1. **interface Service-Engine slot/unit**
2. **ip address router-ip-addr subnet-mask**  
または、  
**ip unnumbered type number**
3. **service-module ip address cue-side-ip-addr subnet-mask**
4. **service-module ip default-gateway gw-ip-addr**
5. **exit**

## 詳細手順

	コマンドまたは操作	目的
ステップ 1	<code>interface Service-Engine slot/unit</code>  Router(config)# interface Service-Engine 2/0	インターフェイス設定モードを開始します。
ステップ 2	<code>ip address router-ip-addr subnet-mask</code>  <code>ip unnumbered type number</code>  Router(config-if)# ip address 172.16.231.195 255.255.0.0  または、  Router(config-if)# ip unnumbered FastEthernet 0/0	Cisco Unity Express のホストである Cisco IOS ルータの IP アドレスとサブネットを指定します。  Cisco Unity Express のホストである Cisco IOS ルータのインターフェイス タイプと番号を指定します。
ステップ 3	<code>service-module ip address cue-side-ip-addr subnet-mask</code>  Router(config-if)# service-module ip address 172.16.231.190 255.255.0.0	Cisco Unity Express モジュール インターフェイスの IP アドレスを指定します。この IP アドレスは、Cisco Unity Express のホストである Cisco IOS ルータと同じサブネット上にある必要があります。
ステップ 4	<code>service-module ip default-gateway gw-ip-addr</code>  Router(config-if)# service-module ip default-gateway 172.16.231.195	Cisco Unity Express のホストである Cisco IOS ルータの IP アドレスを指定します。
ステップ 5	<code>exit</code>  Router(config-if)# exit	インターフェイス設定モードを終了します。

## 例

次の例は、IP 接続をアクティブにする手順を示しています。

```
Router(config)# interface Service-Engine 1/0
Router(config-if)# ip address 10.0.0.9 255.0.0.0
Router(config-if)# service-module ip address 10.0.0.10 255.0.0.0
Router(config-if)# service-module ip default-gateway 10.0.100.10
Router(config-if)# exit
```

## 次の作業

Cisco Unity Express モジュールへの接続を設定したら、Cisco Unity Express コマンド環境を開始し、アプリケーションの設定を開始します。P.31 の「コマンド環境の開始」を参照してください。

## EXEC モードと設定モード

Cisco Unity Express コマンドの EXEC モードおよび設定モードは、Cisco IOS CLI コマンドの EXEC モードおよび設定モードと同様に動作します。ただし、Cisco Unity Express EXEC モードでは一部のパラメータを設定または変更できますが、Cisco IOS EXEC モードでは許可されていません。この Cisco Unity Express 機能を使用して、設定したパラメータをフラッシュメモリに保存できます。フラッシュメモリへの保存により、ディスククラッシュなどの深刻な障害が発生した場合に利用できる最小限の情報がシステムに保持されます。このマニュアルの各コマンドの説明では、コマンドモードを示しています。

## コマンド環境の開始

Cisco Unity Express ソフトウェアをインストールし、アクティブにしたら、次の手順を実行してコマンド環境を開始します。

### 前提条件

Cisco Unity Express ソフトウェアの新規インストールの場合は、この手順を開始する前に、[P.26](#)の「前提条件」および [P.29](#)の「Cisco Unity Express ソフトウェアへの IP 接続のアクティブ化」を参照してください。

コマンド環境の開始に必要な情報は次のとおりです。

- Cisco Unity Express モジュールが格納されているルータの IP アドレス
- ルータにログインするためのユーザ名とパスワード
- モジュールのスロット番号

### 概略手順

1. telnet セッションを開きます。
2. `telnet ip-address`
3. ルータのユーザ ID とパスワードを入力します。
4. `service-module service-engine slot/port session`
5. `enable`

### 詳細手順

	コマンドまたは操作	目的
ステップ 1	telnet セッションを開きます。	DOS ウィンドウ、セキュア シェル、またはソフトウェアエミュレーションツール (Reflection など) を使用します。
ステップ 2	<code>telnet ip-address</code>	Cisco CallManager ルータの IP アドレスを指定します。
ステップ 3	<code>C:\&gt;telnet 172.16.231.195</code> Username: Password:	ルータに対するユーザ ID とパスワードを入力します。

	コマンドまたは操作	目的
ステップ 4	<pre>service-module service-engine slot/port session  Router# service-module service-engine 1/0 session</pre>	<p>スロットとポートに配置されているモジュールを使用して、Cisco Unity Express コマンド環境を開始します。プロンプトが「se」に変わり、Cisco Unity Express モジュールの IP アドレスが表示されます。</p> <p>メッセージ 「Trying ip-address slot/port ... Connection refused by remote host」 が表示された場合は、次のコマンドを入力します。 <code>service-module service-engine slot/port session clear</code> 次に、ステップ 4 を再実行します。</p>
ステップ 5	<pre>enable  se-10-0-0-0# enable</pre>	<p>Cisco Unity Express EXEC モードを開始します。これで、設定タスクを開始できます。</p>

## 次の作業

[P.33 の「設定タスク」](#) を参照してください。


## コマンド環境の終了

Cisco Unity Express コマンド環境を離れ、ルータのコマンド環境に戻る必要がある場合は、以下の手順に従います。

### 概略手順

1. Cisco Unity Express EXEC モードに戻ります。
2. **CTRL** キー、**SHIFT** キー、**6** キーを同時に押してから、小文字の **x** を入力します。

### 詳細手順

	コマンドまたは操作	目的
ステップ 1	<pre>exit  se-10-0-0-0(config)# exit se-10-0-0-0#</pre>	<p>設定モードの <b>exit</b> コマンドを使用して、EXEC モードに戻ります。</p>
ステップ 2	<pre>CTRL-SHIFT-6 x  se-10-0-0-0# CTRL-SHIFT-6 x Router#</pre>	<p><b>CTRL</b> キー、<b>SHIFT</b> キー、<b>6</b> キーを同時に押してから、小文字の <b>x</b> を入力します。</p> <p> (注) Cisco IOS Release 12.3(11)T 以降の場合は、代わりに <b>EXIT</b> コマンドを使用します。</p>